

令和元年 8 月 28 日  
消 防 総 務 課

報道関係者 各位

## ～「新消防本部庁舎運用開始」について～

現消防本部庁舎は昭和 47 年に建設され、40 年以上が経過し、建物の老朽化や狭隘化などの多数の諸問題を抱えていました。

また、近年、複雑多様化する災害・事故への対応や、平時の火災予防・防災に関する啓発活動など、消防本部庁舎として、時代の変化への対応も必要となっており、現消防本部庁舎の抱える問題だけでなく、今後の消防情勢を踏まえ、消防に求められる機能を充実させることにより、消防力の更なる充実と市民サービスの向上を図る目的として、平成 28 年度から建設事業が開始されこの度、令和元年 9 月 1 日より新消防本部庁舎運用開始となります。

### 1. 新消防本部庁舎運用開始

令和元年 9 月 1 日

### 2. 施設概要

(1) 所在地 木更津市潮見二丁目 1 番地

(2) 敷地面積 5,869.20 m<sup>2</sup>

(3) 建築物の構造・規模

庁舎棟・訓練塔 C：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）

4 階建て（庁舎部分は 3 階建て） 建築面積 1,520.91 m<sup>2</sup> 延べ面積 3,913.95 m<sup>2</sup>

訓練塔 A：鉄骨造 5 階建て 建築面積 43.50 m<sup>2</sup> 延べ面積 178.91 m<sup>2</sup>

訓練塔 B：鉄骨造 4 階建て 建築面積 64.65 m<sup>2</sup> 延べ面積 218.20 m<sup>2</sup>

駐車场上屋 駐輪场上屋 受水槽 自家給油施設 20KL

建築物の総建築面積 1,697.56 m<sup>2</sup> 総延べ面積 4,379.56 m<sup>2</sup>

## News Release

### 庁舎棟・訓練塔C

1階	エントランスホール、受付、出勤準備室、火災原因調査室、トレーニング室、ボンベ充填室、救急消毒室、洗濯室、乾燥室、シャワー室、車庫、災害用資機材庫、救急資器材庫、資機材庫1、2、トイレ（男・女）多目的トイレなど
2階	消防署事務室、作戦室、会議室、仮眠室（男、女）、食堂・休憩室、厨房、浴室（男・女）、給湯室、トイレ（男・女）、訓練塔など
3階	消防本部事務室（消防総務課・警防課・予防課）、消防長室・消防団長室、大会議室、相談室1・2、消防団本部室兼会議室、食堂・休憩室、更衣室（男・女）給湯室、サーバー室、文書庫・倉庫、消防団倉庫、トイレ（男・女）、訓練塔など
4階	訓練塔
屋上	受変電設備、非常用自家発電設備、太陽光発電設備
附帯設備	駐車場、駐輪場

### 消防本部庁舎の主な特色

#### 高度な防災拠点機能

##### 《津波対策》

- ・敷地地盤面を1m盛土し、受変電設備、非常用自家発電設備、空調機器を屋上に設置

##### 《災害対応》

- ・非常用自家発電設備の長時間連続運転（72時間以上）を可能とし、災害時においても消防署として必要な機能を確保

##### 《安全性の高い構造》

- ・構造設計条件として重要度係数を1.5とし、通常の基準と比べ地震や強風等に対する安全率の高い構造

##### 《液状化対策》

- ・地震時の緊急車両出動の支障とならないよう、一部の外構部分に表層地盤改良を実施し、消防車両が通る庁舎南側の舗装をコンクリート舗装で施工

#### オーガニックな施設づくりへの取組み

##### 《建物の長寿命化》

- ・外装材に耐久性に優れたせっ器質タイルとチタン亜鉛合金板の使用

##### 《自然素材の採用》

- ・共用ホール、大会議室の壁面には単板積層材（LVL）を使用し、自然あふれる温かみのある空間の創出、環境負荷の軽減
- ・全照明機器のLED化、節水型衛生器具の設置及び自然エネルギー利用としての太陽光発電設備（10kw）の設置



庁舎正面



庁舎南側車庫



太陽光パネル



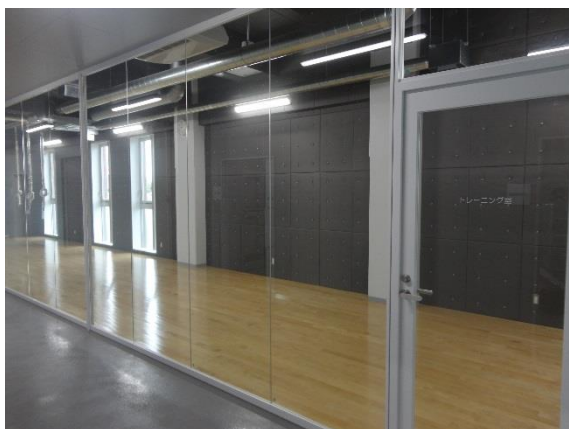
非常用自家発電設備



自家給油施設



訓練塔 A・B



トレーニング室



出勤準備室



受付



仮眠室



大会議室



事務室

※問い合わせ先

木更津市消防本部消防総務課 担当 齊藤（将）

TEL 0438-23-9182 FAX 0438-23-9096 E-mail sho-soumu@city.kisarazu.lg.jp